

---

# 転生、そして・・・

桐生 セイジ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生、そして……

### 【Nコード】

N2248Z

### 【作者名】

桐生 セイジ

### 【あらすじ】

ありがちでベタベタな転生物の習作的な何かです。

剣あり、魔法ありありがちな作品にしたいと思っております。

処女作で拙い文章かとは思いますがお読みいただければ幸いです。

## 0・0 はじまり的な何か（前書き）

昔作ったゲーム用のプロットをそのまま焼きなおしてみた。類似してる作品が無いと良いなと願う次第。。。 （調べた限りは無かったが。。。）

0・0 はじまり的な何か

最初に虚無があった

初めに神が生まれた

神は言われた「大地よあれ」

神は言われた「空よあれ」

神は言われた「海よあれ」

そして最後に神は言われた「時よあれ」

そして・・・時は動き出す

どうやら、この世界の神は怠惰だったようだ。

どうやら私は死んでしまったらしい。

らしいというのは、私には死んだ記憶がないからだ。  
いや、記憶が無いという事は実は植物状態で死んではいないのかも

しれない。

しかし、私がどういう状態なのかはどうでもいい話である。

問題なのは、私には名前をはじめとして”大半の”記憶がないことだ。

あれ？死んだら脳が働かないから記憶は無いのが普通なのか？

まあ、だからといって今のところ不都合がある訳ではない。

少なくとも私は動けないし、すぐに何等かの不都合は生じないだろう……

『眠い……』

そして、私はなぜか無性に眠くなってきた。

なんだ、これは？

選択肢？

『まあ……いいや……』

私の意識は深い眠りへと落ちていった。

0・0 はじまり的な何か（後書き）

実際、ここまでは独創性のかけらもないと思っている。  
今後の展開に期待したい。。。。

0・1 独り言的な何か（前書き）

表現って難しい。。。。

## 0・1 独り言的な何か

私は暗い所でなにやら温かいものに包まれている。

まあ、それはどうでも良い事だったりするのでここでは置いておこう。

幸いな事に考える時間だけは沢山あるようなので、ここで少し私のある世界について整理がてら説明しておこうと思う。

私の今居る世界は、この世界では神々の栄光の世界と呼ばれている。簡単に言ってしまうえば異世界だ。

異世界と言っても、私が前に生きていた世界と根本的な物理法則などは変わらないらしい。

幸いな事に、記憶喪失とはいえ学問的な事は覚えているのでこの世界でも何とかやっていけそうだ。

おっと、忘れてはいけないのがこの世界にはどうやら魔法があるらしい。

まあ、魔法の詳細についてはおいおいやっていく事にしよう。

ここで一番説明しなければいけないのは、なぜ私がここまで知っているかという点だと思う。

どうやら、この世界には、某ゲームのようにスキルのなものやパラメーター的なものがあり、私は先天的なスキルを幾つか保持してい

る。

現在持っているスキルで持っている事がわかるものは、  
転生者の大半が持っている「記憶を受け継ぐ者」

思考能力を引き上げる「覚醒」

そして先天的に知識を持っている「賢者」

この3つだ。

やれやれ、覚醒があるとはいえ生まれる前の胎児にとってはかなりの負担に成ってるようだ。

今回はここらで寝るとする・・・か・・・

## 0・3 続独り言的な何か

やあ、久しぶりだね

私の方は相変わらずの状態だよ。

今回は、前回後回しにした魔法の話をしようか。

この世界の魔法はどうやら『世界を騙す』事により効果を発生させるらしい。

突然『世界を騙す』と言われてもわかりにくいよね？

人がそうだと信じ込めばそれが実現されると表現すればわかりやすいだろうか？

例をあげるならば・・・そうだな・・・一般人を宮廷魔法使いにしたら『宮廷魔法使いならば凄い魔法が使えるだろう』という期待があるから、『本人に魔法を使用するイメージがあれば』凄い魔法が使えるといった感じかな？

私もあくまで知識として知っているというだけだから、上手い例えが出てこないなあ・・・

まあ、本人のイメージの強さ次第で魔法が使えるようになるから、あまり意味があるとは思えないけどね。

とりあえず、上手い例えは後日への課題という事にしようか。

さて、そろそろ時間のようだね。

私はそろそろ寝る事にするよ。

では、また会おう。

1時間後、とある辺境の町で1人の子供が生まれた。

その子供が今後どのように成長するのか、この時点では知る者はいない。。。。。

## 1・0 誕生的な何か

やあ、また会ったね。

うん、まずは現状を説明しよう。

とりあえず、私は生まれた。

当然の如く0歳児として。

当然の事ながら、自分では動けないし、喋れない。

つまりは、何も出来ないに等しい訳だ。

当然の事ながら、見えるものは観察し、聞けるものは聞き情報収集はしている。

だが、所詮は0歳児の私の回りにあるものなどたかがしれている。

魔法を使って多少は感覚を強化してるとはいえ、当面は出来る事は無さそうだな・・・

「・・・アダムは寝ているのかい？」

「さっき寝たばかりですわ」

おや・・・父が帰ってきたようだ。

せっかくだから両親について簡単に説明しよう。

父親は一応騎士らしい。

まあ、産まれたばかりの乳飲み子の前で、わざわざひけらかしたりもしないだろう。

母親はこれといって仕事をしている訳では無いようだ。

私が産まれたから一時的に子育てに専念しているだけかもしれないが・・・

まあ、美人ではある。

美人に母乳を飲ませて貰っている訳だからある意味ラッキーなのだろう。

母親ではあるが・・・

さて、そろそろ疲れたから失礼するよ。

1・1 日常的な何か(前書き)

土日はおやすみねふ…

## 1・1 日常的な何か

やあ、元気だったかい？

さて、とりあえず前回より半年たった訳だが、ある程度わかった事を説明しようか。

今は帝国歴13年

つまり建国から13年しかたっていないらしい。

そして、魔法に関してわかった事は1度に1つしか使えないらしい。と言いつつも私は「幻影」と「実体化」の魔法を常時起動しているから、恐らく一般魔法（一般的に使われる魔法だからこう呼ぶ事にした）で適応されるルールだろう。

ああ、あと父の名前がアーウィン・ロレンスで年齢が22歳、母がリデア・ロレンスで18歳らしい。

家があるのは帝都である。

とりあえずこんなものだれうか？

まあ、こんなもので今回は失礼するよ。

1・1 日常的な何か(後書き)

早く学園編まで入りたい…

## 1・2 発見的な何か

やあ、元気だったかい？

前回から3カ月ぶり、つまり私は7カ月になった訳だ。

そして、色々考えて気づいたんだ。

私の日頃いる部屋には魔法を使った照明器具が設置されているが、それは入口付近のスイッチらしきものによって管理されているらしい。

まあ、それだけならどうという事は無いんだが、私は気付いたんだ。

どうやら、この世界の魔法には距離が関係ない。

それがどういう事かと言うと、私が生み出した魔法を使えば私はベッドに寝ながらにして『外の世界を旅出来る』という事だ。

つまり、私が遠隔で人の幻影を生み出し、それに実体として活動出来るものを付与する事で、平たく言えば幽体離脱したものに実体がある状態を生み出す事が出来るという事だ。

そして、魔法を使ってモンスターを倒せば経験値が手に入る・・・これは基本中の基本だ。

上手くいけばチート級の成長が出来るのではないだろうか？

これは試してみる事にしよう



### 1・3 はじまり？的な何か

やあ、久しぶりだね。

といつても前回からほとんど時間がたつてない訳だが・・・

とりあえず、試してみよう。

『幻影』・・・よし上手く発動したようだ。

ベッドの横にぼんやりとした白い固まりが見えている。

あー・・・どのような姿にするか指定しないとダメか。

とりあえず、私が成長して15歳になった位にしておこう。

そう決めた途端白い固まりは銀髪の美少女へと変わっていく。

ああ、説明してなかったかもしれないが、私は自分自身が産まれる前に自分を対象に『幻影』の魔法を掛けた上で『実体化』の魔法を掛けている。

つまり、私は本当は女なのだ。

まあ、ここではあまり関係無い話なので実験の方を進めよう。

次の段階として『実体化』を掛ける。

そして自分自身を抱き上げる。

成功だ

とりあえずベッドへと戻し魔法を解除する。

これで成長を待たなくても冒険が出来る。

あ、何か空間把握系の魔法を使わないと状況がわからないぞ・・・

『遠視』を使えば行けるか？

その辺は実地で試す事にしよう。

モンスターのドロップは、異次元にでも部屋を作って保管すれば良  
いか。

使えば使っただけステータスは上がるようだし、がんばろう。

とりあえず、軽く探索に行く事にし、家の外に魔法をさせる。

『遠視』を幻影の目の部分を起点として発動する事で視野を確保し  
て、帝都内を散策してみる事にする。

私が済む家は住宅地にあるらしく、周辺にはほとんど人がいない。

まあ、昼だしな・・・

とりあえず、賑やかな方に向かう事にしよう

1・3はじまり?的な何か(後書き)

ちよつとは進んだかな・・・?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2248z/>

---

転生、そして・・・

2011年12月14日16時52分発行